

2012年度先行登録説明会のご案内

2012年度に開講されるプロジェクト科目(21科目)の登録説明会・先行登録を3月31日(土)、今出川・京田辺の各校地にて実施します。登録を希望する学生は、必ず登録説明会にも出席してください。

京田辺校地開講 10科目

3月31日(土) 13:15～登録説明会(夢告館203番教室)
14:15～先行登録

今出川校地開講 11科目

3月31日(土) 10:00～登録説明会(寧静館31番教室)
11:00～先行登録

詳細は、下記プロジェクト科目ホームページおよび今出川・京田辺両校地の掲示板をご参照ください。
シラバス・講義概要はWEBで検索できます。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>

2012年テーマ一覧 <https://cns.doshisha.ac.jp/> ※各テーマの詳細はテーマ一覧リンクをクリックしてください。

ブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/> シラバス・講義概要検索 <http://syllabus.doshisha.ac.jp>

2012年度プロジェクト科目一覧

テーマ	科目担当者(所属・氏名)
京田辺校地	
食育と健康(菜膳と野菜作りで、正しい食事と健康を考える)	NPO法人けいはんな薬膳研究所 井原 浩二
ものづくり・人づくり	中村 成男
エコタウン実現プロジェクト — エココミュニティの形成を目指して —	株式会社東洋設計事務所 齋藤 篤史
子供の成長に良い玩具の考察と企画	株式会社タカラトミー 渡辺 公貴
大学発!スポーツプロモーション ～健康で豊かな社会を目指して～	高橋 仁美
同志社電子書籍プロジェクト — 学内の新聞やミニコミ誌を配信	中野 明
梅田スカイビル(空中庭園・飲食店街他)魅力アップ提案	株式会社清水計画室 清水 光次
— 電気自動車を作って「けいはんな」で走らせよう —	けいはんな地域マイクロEV開発協議会 岡田 実
中学生のための「プロデュース能力」養成プログラム開発プロジェクト	NPO法人プロデュース・テクノロジー開発センター 西村 ひろみ
編集者になろう! — 同志社発!学生目線の情報リテラシー —	株式会社日経BP 中野 淳 理工学部 佐々木 和可緒
今出川校地	
京都土産から学ぶ商品企画	株式会社おたべ 酒井 宏彰
交通バリアフリーを普及させよう — 歩くまち京都を実現するために	京都市都市計画局 宮崎 秀夫 商学部 青木 真美
京都伝統地産産業のイノベーションとキャリア発達を探る	NPO法人日本キャリア・カウンセリング研究会 作田 稔
心ぬくもる「絵本」に出会う～絵本ソムリエ・プロジェクト～	上野 康治
京都の織物文化活性化計画!～織物の伝統技術について考えよう～	一般財団法人日本伝統織物研究所 龍村 周
京の台所・錦市場を中心に「京の食文化」を留学生に発信しよう!	株式会社空 遠藤 正彦
世界遺産をデザイン!～花「桜」と共に生きる吉野山プロジェクト	NPO法人フラワー・サイコロジー協会 浜崎 英子
「音楽は心の薬」 — 高齢者に音楽環境を整える・ラジオを活用して	大江 宮子
地域コミュニティの活性化に向けて — 「学生と地域の共生・共働・共汗を目指す!」 —	京都市上京区役所 豊田 博一
京都市伏見地域活性化プロジェクト	株式会社ワークアカデミー 川上 雄一郎
西陣を世界へ!	河合 大治郎 商学部 山内 雄気

Pick Up!

プロジェクト科目とは?

2006年度から始まった「プロジェクト科目」は、教員が一方的に知識を伝授する講義スタイルとは異なり、受講生自身が構想、計画をし、ディスカッションを重ね、行動するという、実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えてチームとして共に活動し、プロジェクトを推進していきます。

京都市営地下鉄今出川駅南改札内、エスカレーター正面に位置するショーウィンドーにおいて、プロジェクト科目の活動に関する情報発信を行っています。2011年度プロジェクト科目「京都の織物文化活性化計画!～織物の伝統技術について考えよう～」受講生の京都市交通局への熱意あるプレゼンテーションの結果、使用が認められました。今出川にお越しの際は、是非、ショーウィンドーにご注目ください。



Project
Based -
Learning

問合せ先
同志社大学PBL推進支援センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 教務課内
Tel: 075-251-4630 Fax: 075-251-3064
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp
ホームページ
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
ブログ
<http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>

PBL

Project - Based Learning

推進支援センター通信

Vol.5



根本 伸悦 氏(広島経済大学 興動館プロジェクトセンター長)

「広島経済大学におけるPBLの取り組みとその課題」

福田 康典 氏(明治大学 商学部 准教授)

「明治大学におけるPBLの取組」

活動報告

- 2011年度「PBL推進協議会」
- 2011年度「第2・3回市民公開型教職員協同講習会」
- 「PBL教育フォーラム2011」
- 2012年度プロジェクト科目「担当者・代表者説明会」
- 2011年度プロジェクト科目「秋学期プロジェクト・リテラシー講習会」
- 2011年度プロジェクト科目「秋学期懇談会」
- 2011年度プロジェクト科目「秋学期成果報告会」
- 2011年度「シンポジウム」
- 2011年度プロジェクト科目「学生成果報告書」

- 卒業生からのメッセージ/堀内 ゆうきさん(2010年卒)
- 山田センター長のつぶやき

2012年度プロジェクト科目先行登録について
2012年度プロジェクト科目一覧



本 伸悦 氏

(広島経済大学 興動館プロジェクトセンター長)

「広島経済大学における PBLの取り組みとその課題」

「『ゼロから立ち上げる』興動人の育成」が、広島経済大学全体で取り組んでいる教育目的である。この「興動人」というのは、既成概念にとらわれることなく、ゼロからものごとを考え、失敗を恐れず、他者と協働して「何か」を成し遂げることができる人材であると本学では定義している。「人から言われてはじめて動く“待ち”人間」ではなく、厳しい実社会に立ち向かい、自分自身の力で人生を切り拓くことができる人間を育てることが教職員全員の願いであり、ゴールである。

この教育目的を達成するために、本学では平成18年度から「興動館教育プログラム」をスタートさせた。このプログラムは、「興動館科目」と「興動館プロジェクト」で成り立っており、この2つが相互に作用し合い、実社会で活躍するための人間力を育てる仕組みになっている。「興動館科目」は、すべての学生が自由に選択できる科目群で、卒業単位に含まれ、当時、日本の大学教育にはなかった「フィールド」という考え方を採用し、学問領域ではなく、達成されるべき目標で科目を分類している。この「フィールド」には「元気力」「企画力」「行動力」「共生力」の4つがあり、今年度の科目数は31科目で毎年約1000人の学生が受講している。一方、「興動館プロジェクト」は、学生が主体となって「国際交流・社会貢献・地域活性・経済活動」といった実践活動に挑戦するものである。学科、学年の枠を超えて学生が集い、新しい企画や目標を掲げて「ゼロから立ち上げる」体験をするものである。卒業単位には含まれないが、

現在は約350人の学生が日々活動している。

この「興動館プロジェクト」に学生が関わる具体的な方法には、新規のプロジェクトを立ち上げる方法と既存のプロジェクトに参加するという方法がある。新規のプロジェクトを学生が立ち上げるには、まず、プロジェクト審査会にエントリーし、申請書を作成する。次に審査会でプレゼンテーションをした後、内容に関する質疑応答などを受けて、その結果が基準を満たせば新規のプロジェクトとして認定される。この6年間で約30のプロジェクトが立ち上がり、現在は16のプロジェクトが活動している。特に、今年度から制度化した「入門プロジェクト」は、年間を通して申請ができるという気軽さもあり、すでに4つのプロジェクトが認められた。

現在の「興動館プロジェクト」の課題としては、プロジェクトの体験が学問としての学びになかなか結びつかないことが挙げられる。プロジェクトは本来、実践活動を通して学問の必要性を実感し、学びを深めるというねらいもあるのだが、そこを意識している学生が少ないというのが現状である。もう一つの課題は、卒業後の進路に結びつく学生がまだ少ないことである。これまで、プロジェクトの経験がきっかけで、将来の職業に発展した学生もいたが、まだ実績としては少ない。今後は、この経験が就職につながるだけでなく、卒業後も会社・地域・社会、そして世界を元気にできる人間を育てていきたいし、PBLの取り組みには、その可能性は十分あると日々感じている。

近頃の学生はまじめだという言葉聞くことが多くなりました。もちろん、まじめであることは良いことだと思います。しかし、こうした気質は「覚えること」に主眼を置いた受動的な学習姿勢との相性が良いようです。その結果、自分なりの切り口で物事を考えたり、自分の考えを誰かに伝えて議論したりといった、より能動的な学習スタイルが影をひそめてしまっています。こうした学生が社会に飛び出していくと困惑することも多いようです。なぜなら、課題の解決方法なんて誰も教えてくれませんし(もっと言うと課題が何であるか自体を教えてくれません)、自分を主張せずに黙っていれば相手にさえしてもらえないことしばしばあるからです。

こうした点を踏まえ、明治大学商学部では、平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム採択事業「広域連携支援プログラム-千代田区=首都圏ECM」と平成20年度質の高い大学教育支援プログラム採択事業「地域・産学連携による自主・自立型実践教育」を中心に、学生の「見える化」という目標を掲げ、社会に実存する現象や課題を自分の目で観察し考えることのできる人材(つまり社会が見える人材)の養成と、自分の考えや企画を積極的に社会に情報発信することのできる人材(つまり社会から見える人材)の養成に取り組んできました。

この取組の主な舞台が、地域連携や産学連携を中核においた実践的な科目、『特別テーマ実践科目』で

す。学生たちは、実践的なテーマを持ってフィールドに赴き、観察や調査を通じて課題を抽出し、仲間同士で意見をぶつけ合いながら課題の解決策を立案・実行し、最後にその成果を積極的に公表します。そこでは、誰も答えなど教えてくれません。自分で成果を生み出し報告しなければ評価もしてもらえません。教員と学外の支援者(例えば、行政を担当する人や企業で働いている人)はタッグを組んで、学生たちのこうした自主・自立的な学びがスムーズに進んでいくためのバックアップを行っています。毎年、およそ20テーマが開講され、中には実際の自治体や企業が抱えている課題(例えば村おこしキャンペーンや新製品開発など)をそのままテーマにした地域連携や産学連携の授業なども展開されています。新聞や雑誌などで取り上げられることも多々あり、こうした取り組みは、明治大学商学部の教育を特徴づけるものとして社会に認知されてきています。

「学理実際兼通ずる人材の養成」という明治大学商学部の教育理念を実現するためには、講義科目を通じた知識の獲得と実践科目を通じた知識の活用の双方が不可欠です。今後は、実践科目と講義科目との連結強化を今以上に推進しながら、商学部で学んできたことの実験場としてより多くの「見える化」を実現することを目指していきます。



福 田 康 典 氏

(明治大学 商学部 准教授)

「明治大学における PBLの取組」